真のロータリアン

国際ロータリー第2510地区
2010−2011年度 ガバナー 佐々木正丞
（札幌RC）

ロータリーは、1905年の２月23日木曜日に、わずか４人の仲間で始まりました。「一人一業種で親睦を深める会を作る」という設立趣旨から生まれ、２週間に１度のペースで会合が開催されました。最初のクラブ定款は1906年１月に誕生し、「会員の職業上の利益の増進」、そして、「親交と社交のクラブに普通付帯する望ましい事柄の増進」と、たった２つの条文だったようです。したがって、初期のロータリーは、会員の相互扶助による結びつきを重視した、友好親睦団体の様相を呈していました。

利己的な互恵主義のクラブへの入会を拒絶したドナルド・カーターにより、再考させられたポール・ハリスは、クラブ定款の改正をし、1906年に第３条として「シカゴ市の最善の利益を振興し、会員間に市民としての誇りと忠誠の精神を鼓舞すること」という条項を加えました。以降、ロータリーは奉仕の理念とともに発展拡大を遂げるようになりました。

1923−24年度のＲＩ会長に就任したガイ・ガンディカー氏が1915年に採択された「ロータリーの道徳律」を踏まえて、理論及び教育委員会委員長として1916年にまとめた「ロータリー通解」では、高度な職業倫理と奉仕理念を提唱され、当時はロータリアンのバイブルとまで称されていたようです。この中では「He Profits Most Who Serves Best」と「Service, Not Self」の標語が使用され、自己滅却の奉仕として理解されるようになりました。

この中で、彼は、「ロータリアンはロータリーからそれぞれの職業分野に送られた代表者である。それぞれの職種にロータリーの理念たる職業倫理と奉仕とを普及させることによって、各会員の属する職種全体を向上させることが出来る。」とまで述べております。

また、彼は次のような意味のことを言っております。「ロータリアン」とは、ロータリーの例会で、自らを高め、そして自らの職業分野に戻ってロータリーの理想を広めていく、それが真のロータリアンである、そういうことをやらずに、単に昼食会というようなことで出席している会員は、「ロータリークラブの会員」と呼び、「ロータリアン」と呼ぶことはできない、と。

決議23−34の第１条には、「ロータリーは、基本的には一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務、及びこれに伴う他人のために奉仕したいという感情との間に常に存在する矛盾を和らげようとするものである。（後略）」とうたわれておりますが、倫理性の高い職業を営むことによって信頼を得ることができ、結果的に永続的な職業と利潤を得ることになるというものです。ロータリーは利己と利他との調和を自分の職業を通じて実践するよう求めているのであります。

時は100年以上経過し、時代は変わり、ロータリーの組織規模も大きくなり、組織形態や奉仕活動の内容もその時代に応じた姿に柔軟に対応していかなくてはなりませんが、ロータリーの理念は不変であります。

今月は、職業奉仕月間および米山月間であります。皆さんもロータリーについて、私とともに今一度、原点に戻って考えてみませんか。真のロータリアンになってみようではありませんか。